

寺
こよみ

一 月

一 日 修正会
三 日 日校かるた会
四 日 栗虫報恩講
六 日 日校成人式
九 日 御正忌準備
二 日

御正忌

一 三 日 一時 お逮夜
一 四 日 一時 お逮夜
一 五 日 十一時

一 六 日 七時 お初夜
十一時

浦山・析屋・
熊野・大橋お講
一時 ご満座
ご講師 服部法樹師

一 二 日 雪ん子大久保小
学校公演



寺 報 善 巧

発 行
〒 938-0862 富 山 県
下新川郡宇奈月町浦山497
白 雪 山 善 巧 寺
T E L (0765) 65-0055
F A X (0765) 65-0975
メー ル zengyou@box.email.ne.jp

講題 「本願の宗教」

服部 法樹 師

御 正 忌

一月十三・十六日

弘法大師空海の書いた『秘蔵宝鑰』（ひざうほうやく）という書物の序文に「生まれ、生まれ、生まれ、生まれて生の始めに暗く、死に、死に、死に、死んで死の終わりに冥（くら）し」という言葉があります。要するにこの私の命はどこからやって来たのか、またこの命は死んでどこに行くのかも解らないということです。こういう状態を「迷い」と言います。ところで、生死に迷っているものが迷っている者に道を尋ねても答は返ってきません。もし答えてくれたとしてもそれは無責任な答でしょう。迷っている者は迷いを超えたお方に道を尋ねたとき、進むべき道を知ることができるのです。以前家族で遊園地に行ったとき、巨大な迷路がありまして。私たちも親子四人でその迷路の中に入って行きましたが、なかなか出口までたどり着くことはできませんでした。しばらくして三歳の娘が急にトイレに行き

生死いずべき道

たいと言いました。迷路の外に出ればトイレがあります。迷路の外に出るには、入り口に引き返すか、前に進み出口に向うしかありません。まわりに居る人に道を尋ねようとしても、その人も迷っているのだから教えてはいただけません。ただ右往左往するだけで、あせればあせるほど迷いは深くなるばかりでした。たまたま非常出口と書き示した矢印があり、指示に順って進むと出口があつて事なきを得ました。このことから、迷っている私は迷いを超えた仏様に道を尋ねた時、初めて迷いを超えてゆく道を知ることができたのだということを思い知らされました。その道しるべこそが「必ず浄土に生まれる」といって念仏を申せ」という本願の言葉でしょう。私たちはその本願の仰せに順って念仏を申す人生を歩む時、はじめて生死いずべき道が開けてくるのです。

服部 法樹 師



歎異抄に聞く(一)

本願寺勸学

よしやましようかい
靈山勝海和上



聞くことの意味

「大切な証文ども、少々ぬきいでまゐらせ候うて、」この書に添えたという、この部分は終わりにしまして、それに続く「聖人のつねのおほせには」という言葉を、理解していきたいのです。「聖人つねのおほせ」というのは、つねのおほせですから、いつもいつもおっしゃっておった、聖人のご持言

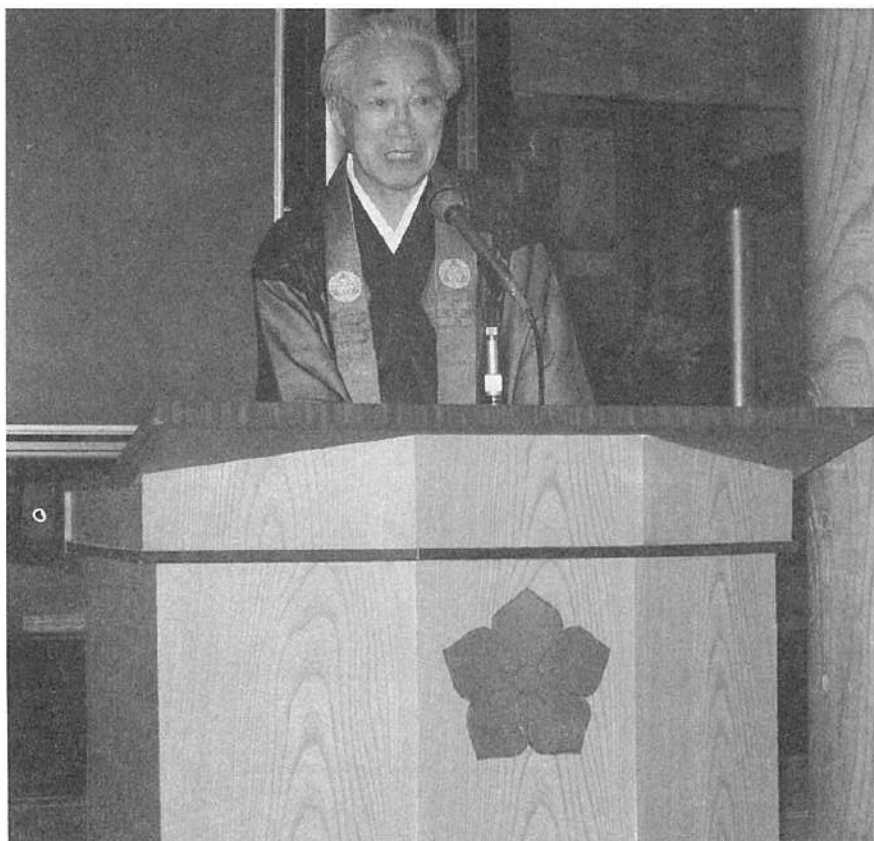
でございます。まあ浅原才一さんで言いましたら、「御恩うれしや南無阿弥陀仏」というような言葉であり、源左同行でありましたら、「ようこそようこそ」というような、その人その人の人柄なり、その人の内容として受け取ることの出来るような言葉が、聖人つねのおほせでありまして、誰もが知っていて、「ああ又か。俺も聞いたぞ。わたしも聞いた。」というように、とにかく聖人が、いつもいつもおっしゃっておったようなお言葉。いつもいつもおっしゃっておったようなお言葉というのは、何を意味するか、と

申しますと、それこそ聖人の信心の披歴、と云うことが出来るような言葉。それが、「聖人つねのおほせ」ということであると思うのであります。時間が短いのでいらいまするのですが、ちよつとここで申したいのは、言葉を聞く、これは「聞其名号」の聞にしても一緒であります。言葉を聞く、あるいは文章を読むということとは、一体どういうことか。そういうことを、一言申しておきたいのであります。言葉というのは、これは共通という性質を持って、普遍的なものであります。そして言葉は何のために使うか、といいますと、私の心を表現するために、言葉を使うのであります。私の心を、言葉という入れものにいれて表現して、そしてそれを、聞くというこ

とになるのですが、相手が聞受する。受け取ってくれる。ところが本来は、こういう言葉というようなもの、無いほうがいいんだと思います。ここからころへ、テレパシーみたいにストレートに行けば、間違いが起らないのですが、どうもそういうわけにはいきませんから、言葉という共通の入れものを使って、相手にわたすのであります。ところが私の心というのは、これは共通である

ことをもつともきらう性質のもの、特殊なものであります。こういう特殊な性格を持っているものを、共通の入れものである言葉の中に入れて、そしてそれを聞く側が、又自分の特殊な心で受け止めていく。こういうことです。ですから、本当は言葉というものはなかなか伝わらないのです。「ちよつとアンプのボリュームを上げて下さいませんか」、こういう言葉は簡単に伝わります。――





抄に聞く 霊山勝海師

今のはお願いしたんじゃないんですが——、しかなしながら、心の内面的な問題、悲しみでありますとか、痛みでありますとか、苦悩というようなものは、いくら言っても、夫婦でも、親子でも、兄

弟でも伝わらないのでありまして、そういう意味で、このお聖教を読む、あるいは言葉を聞くというの、それは国語学的にいくら解釈しても、あるいは読めない文章を読めるように操作致しまして

でも、それじゃ読んだことにならない。読んだということは、相手の心が私の心にそのまま移動する、移る、その時に初めて読んだ、分かった、理解したということが出来るのでありますから、で

すから『歎異抄』を私も読んではおりますが、読んだことになかなかならないのであります。

この、「聖人のつねのおほせ」として、次に出てきます文章を、本当に読めたということは、これは親鸞聖人の信心ですから、その親鸞聖人のぬくぬくとした信心が、私の胸の中に、ふつつつとして甦った時に、初めて聖人のお言葉を讀んだ、聖人のお言葉が聞けた、ということになるのであります。目で追って、文字を、目で追うて、字面を見ただ

けじゃ、読んだことにならないのであります。そういう意味で「聞其名号」の聞も同じことでありまして、聞くとか読むとかいうことは、大変難儀なことなのでございます。

ここで足踏みばかりしているのどうかと思うのですが、喩えて申しましたら、音楽を録音致しますのに、なかなかきれいに録音するのはむづかしいものですから、ドルビーと言うシステムを使って録音するものがあります。テープレコーダー、そこらに持っていってしゃるものはそういう操作は無いと思いますが、ドルビーというシステムがあります。ドルビーというタイプとBというタイプとがありまして、そしてそれにもう一つd b xというタイプがあります。ですからドルビーAというタイプで録音したものを再生します時に、ドルビー

Bという再生装置を使いましてら音楽にならないのです。逆の場合もそうです。逆の場合もそうです。d b xで録音したものをドルビーAで再生しても、聞いて聞けないわけじゃありませんけれども、まあ原音とは似ても似つかないような汚い音になってしまふのです。

これをエンコーダー（形をかえて録音する）、デコーダー（もとの形に復元する）と、こうテープレコーダーの上では呼んでおりますが、一つの入れ物に入れる。共通の入れ物に入れる。それを再生する時には、入れたときと同じ理解力がそこに伴いませんと、それは私も聞いても聞こえん、読んでも読めないことになるのであります。ちよつとこんな所でお説教になつてしまいました。次に移りましょう。

（つづく）

報 恩 講

十月十九・二十日

浄土真宗の大切なご法要・報恩講が十月十九、二十日に勤まりました。お世話方の手で申盛のお華東が供えられ、川崎順正師のご法要で二日間四席が無事勤まりました。今回も巨大かぼちゃの重量当てクイズと、会館でのちぎり絵展が行われました。



川崎順正師



総代の方々と、巨大カボチャ。
今回も参拝者へのお楽しみ、重量当てクイズをして頂きました。



橘照子ちぎり絵教室のみなさん。
報恩講から空華忌までの期間、会館にてちぎり絵展示。



世話方が作ってくださるお斎が振舞われます。



空 華 忌

十一月四・五日



ご講師は元南米開教総長、本願寺派司教の高田慈昭先生。



高田先生を囲んで

一 (11・7) 橋場一二三(母・11・29)開沢弘(祖母・12・7)
島田三郎(妻・12・9)橋修造(12・23)

二十七回忌 (昭和五十四年往生)

嶋田勲(母・1・18)福澤順七(母・1・23)佐々木忠男(1・27)浦山弘(母・2・8)開澤信義(2・13)佐々木貞義(3・4)橋場東作(母・3・7)開澤権作(3・11)中村石次郎(3・23)佐々木安正(5・2)野畑市右工門(5・19)大浦力次郎(6・6)川内幸七(母・6・7)谷口輝夫(6・8)根塚三郎(6・9)川瀬松(6・12)佐々木新九郎(妻・6・13)樫義孝(妻・6・22)河村義和(母・6・28)桒澤勇悦(7・10)浦田甚作(妻・7・21)佐々木宗太郎(7・27)根岸清次郎(8・2)野島政次(8・9)大薮武男(妻・8・25)岡田猪作(母・8・29)上坂伊作(10・7)開澤茂(母・11・19)澤田理作(11・19)森岡栄一(母・11・25)谷口義松(母・12・17)野畑幸次郎(妻・12・30)

三十三回忌 (昭和四十八年往生)

丸田正一(母・1・5)橋常由(長男・1・14)浦田栄二(妻・3・2)新保文次郎(3・6)中林勝次(3・16)中村正行(3・30)浦沢一郎(母・4・15)高島孝作(母・5・15)大野清作(妻・6・2)野畑博(祖母・6・14)森岡清松(父・6・19)丸田浅吉(妻・6・19)川内政雄(長女・7・3)桐清吾(母・7・6)佐々木慧(妻・7・9)森岡重太郎(7・10)佐々木弥左工門(娘・7・20)桒沢良造(8・23)福沢作次郎(9・21)野島宇之吉(10・10)佐々木鉄男(母・10・13)佐々木重左工門(母・10・22)佐々木清太郎(妻・11・19)桒沢吉次郎(12・15)佐々木仁太(12・16)川瀬恭一(母・12・28)

五十回忌 (昭和三十一年往生)

大薮冬蔵(1・7)浦田安次郎(妻・1・8)浦寄弥三(1・15)野崎安平(2・8)野崎吉次郎(妻・2・16)沢木伊左(3・8)佐々木虎松(六女・3・12)橋場兵四郎(3・18)

大浦政男(母・3・31)橋場兵四郎(祖母・4・1)島田安次(4・7)橋場兵蔵(妻・4・16)樽井与四郎(女・6・2)橋場兵蔵(6・3)板倉由次郎(7・4)沢田康平(長男・7・14)上野与三吉(8・30)佐々木次郎(長女・9・3)丸田清作(父・9・4)高島彦一(9・21)谷川彦平(母・9・22)藤沢伊次郎(10・3)川内繁松(長男・10・3)川口仁作(母・10・4)佐々木市三郎(10・11)野崎吉造(10・27)桒沢半七(10・31)鬼原勝次(母・11・21)川内盛義(妻・12・17)

雪ん子劇団

結城美栄子さんと共演

十月三十一日に、宇奈月国際会館セレネで雪ん子劇団が「結城美栄子、朗読と音のコラボレーション」に賛助出演しました。

プログラム一番に結城さんが『善巧寺のイチヨウ伝説』を朗読。その後、雪ん子たちが『ことばあそびうた／谷川俊太郎』を熱演。劇のラストには結城さんの指導のもと創った



お面を付けて群読しました。ラストには、結城さんとバンドの方たちと大合唱。

プロの方と共演させて頂き、こどもたちにとって大きな財産となりました。

寺 二 月

浦山お講

三日市報恩講

生地荻生報恩講

下立お講

歎異抄講座
舟見報恩講

下立報恩講

入善報恩講

熊野報恩講

雪ん子中央公民館改装記念公演

桒屋報恩講

三 月

浦山お講

浦山報恩講

浦山報恩講

前坊守一周忌

析沢お講

歎異抄講座

雪ん子劇団

春の定期公演

御正忌

親鸞聖人のご命日に行
われる厳肅な法要

一月十三日 午後一時 お逮夜

講師：転法輪正視師

十四日 午後一時 お逮夜

講師：雪山 教隆

十五日 午前十一時 お講

午後一時 お逮夜

午後七時 お初夜

十六日 午前十一時 お講

午後一時 ご満座

「本願の宗教」

服部 法樹師(広島)

歎異抄講座

仏教書の世界的ロング
セラー歎異抄の講座

時間：午後七時半

日程：二月十七日、三月十七日、四月十三日、

五月十七日、六月十七日、九月十四日、

十月十一日、十一月十一日、十二月十四日

場所：門徒会館二階

会費：千円

講師：高務 哲量師(福井)



御正忌準備

一月十二日午前八時半

日校成人式

一月九日午後一時



日曜学校 かるた大会

一月三日午前十時

Zengyou.Net

善巧寺情報発信処 <http://www.zengyou.net>

善巧寺のホームページアドレス変更に合わせて
ホームページリニューアル！パソコンでインター
ネットに繋がる方は、是非ご覧ください。
アドレスは<http://www.zengyou.net>



雪ん子劇団 卒業公演

三月二十七日

前坊守一周忌法要

三月十二日

合 掌

暖かい十二月でした。単純に、過し易くて有難いなんて言っていました、よく考えると恐いことかもしれません。地球はどうなっていくのでしょうか。

* * *

昨年は浦滝俊雄さんをはじめ現、旧総代さんが、七人亡くなりました。寂しい限りです。

前坊守も今ごろはまだ元氣だったなあと偲ばれる毎日です。

* * *

年末は雪ん子劇団二十五周年記念公演があり、超多忙を極めました。四半世紀にわたって続けられたのもよほどの縁あつてのことでしょう。

ご門主様の教書にも「次代を担う青少年の育成も宗門の大切な役目です」とあります。門徒であるなしにかかわらず仏の子を育てることとはお寺の重要な役目です。

